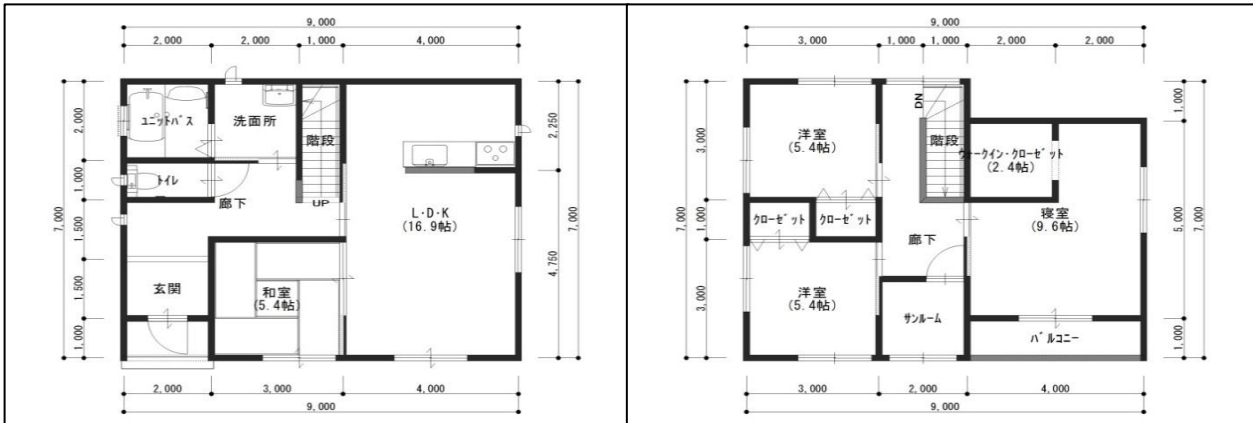


# FAQ 段違い屋根の入力

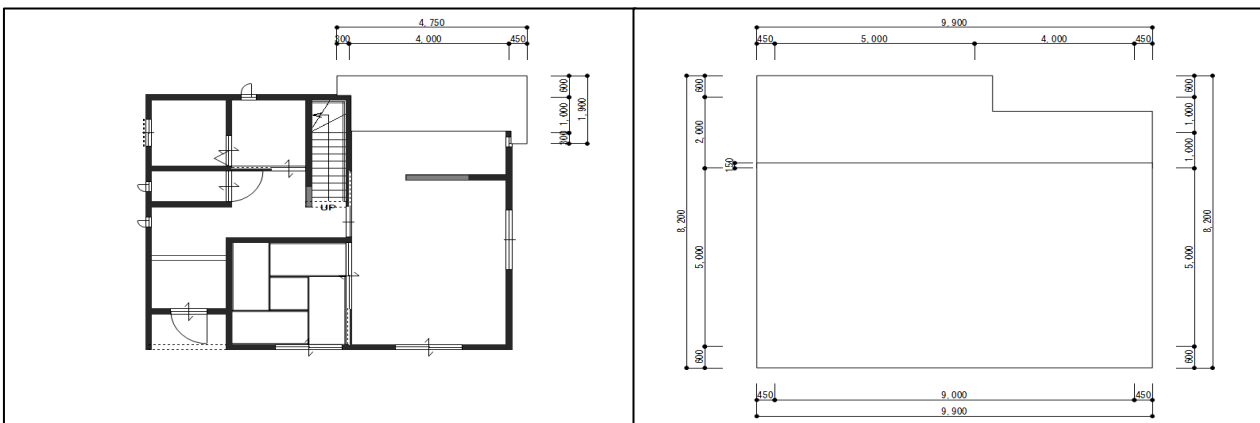
## 屋根の手動入力

次のようなプランに、段違い片流れの屋根を作成します。



【1階プラン図】

【2階プラン図】



【1階屋根伏図】

【2階屋根伏図】



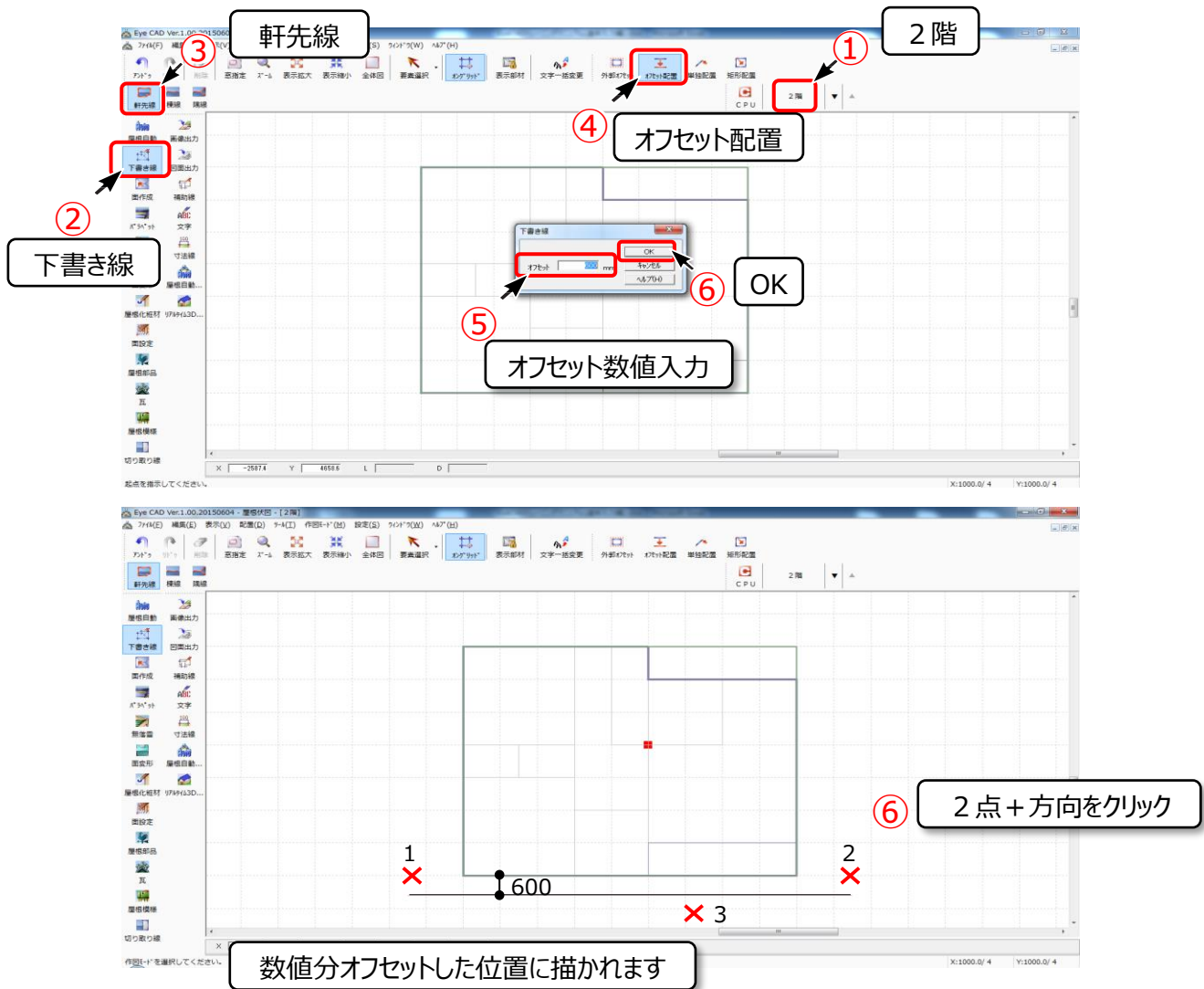
## Ⅱ-1. 下書き線による外形の作図

屋根面を作成するために必要な外形を、下書き線を用いて描きます。

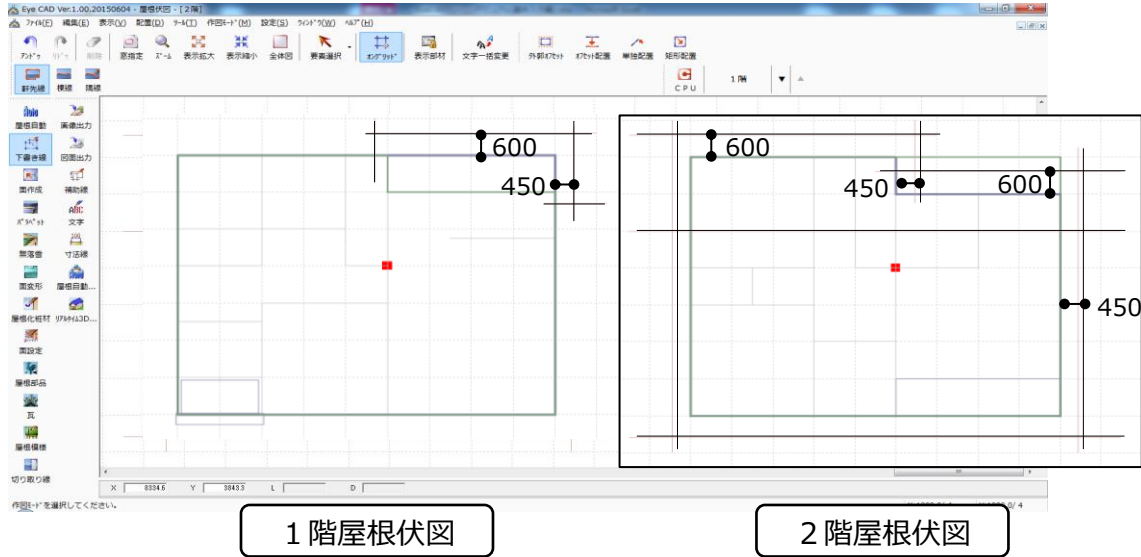
下書き線は補助線と似たもので、実際の図面には表れてきません。「軒先線」「棟線」「隅線」の3種類がありますが、これらは入力方法が異なるものの、描かれる線は同じものです。

※各下書き線の特徴

- ・軒先線：数値を決め、入力した点から数値分オフセットした(ずれた)位置に線を描きやすい
- ・棟線：2本の下書き線の間中点(=棟のライン)に線を描きやすい
- ・隅線：始点から45°単位でしか入力ができないので、隅や谷の線を描きやすい



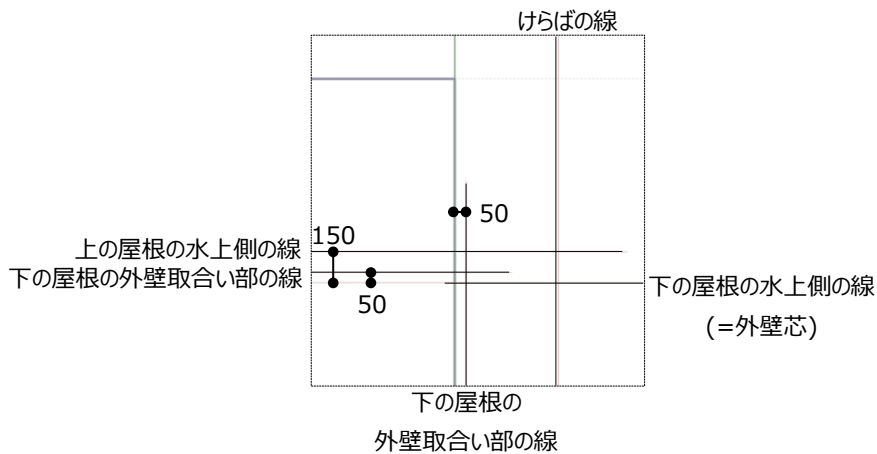
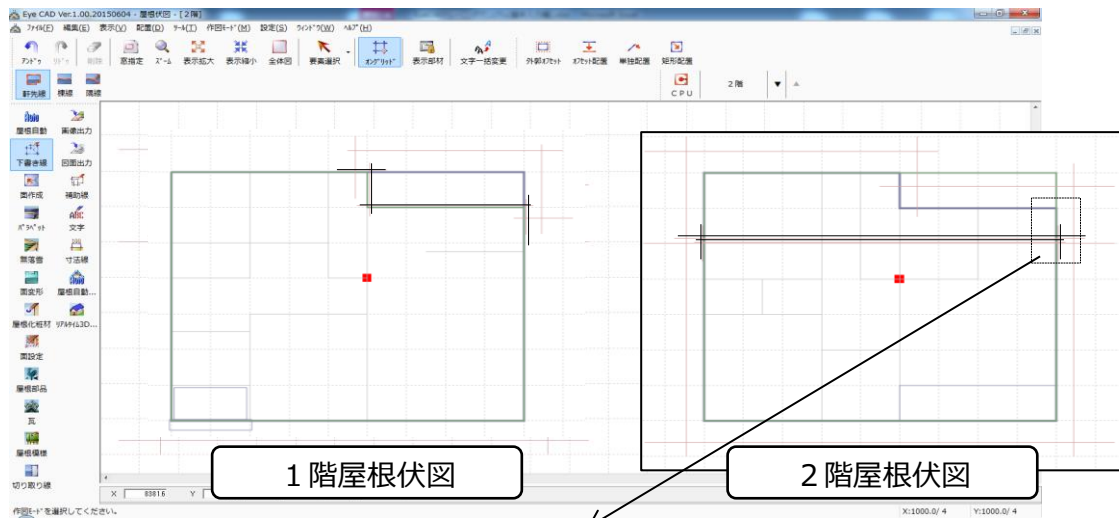
軒の出：600mm けらばの出：450mmとして、以下のように軒先の線とけらばの線を描きます。(1,2階とも)



段違い片流れの場合には、注意する点が2点あります。

- I.上になる屋根の水上側の出を表現するために、2つの面を重ねて作成する必要がある
- II.下になる屋根は外壁と取合う部分があるため、取合い部は外壁の厚み分セットバックして面を作成する必要がある

これらに注意して、棟の部分の下書き線を描きます。

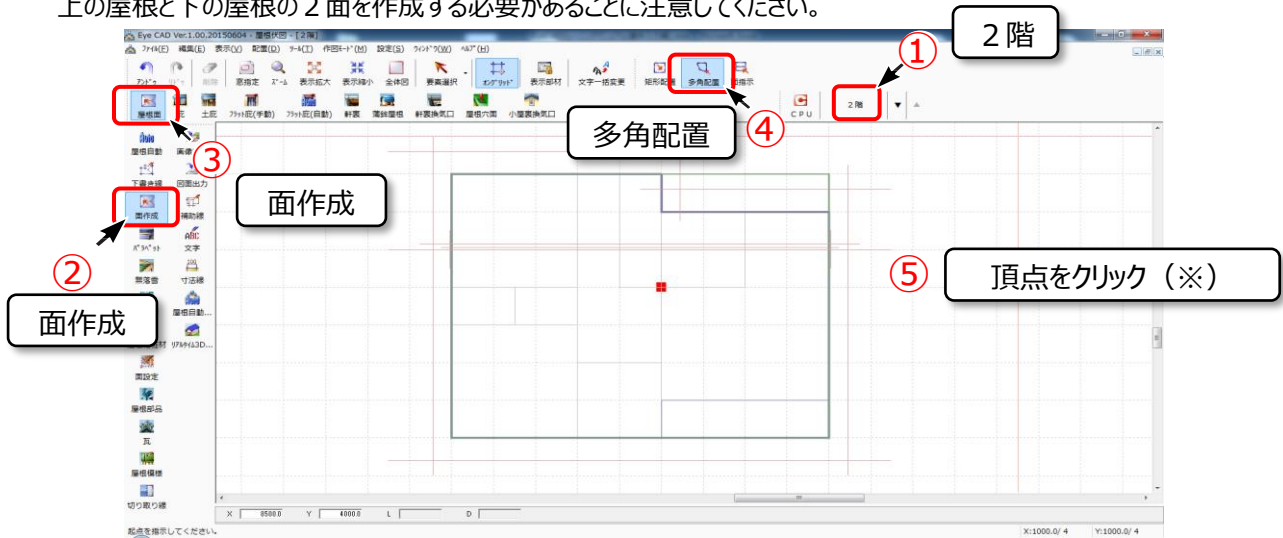


これで下書き線は完了です。

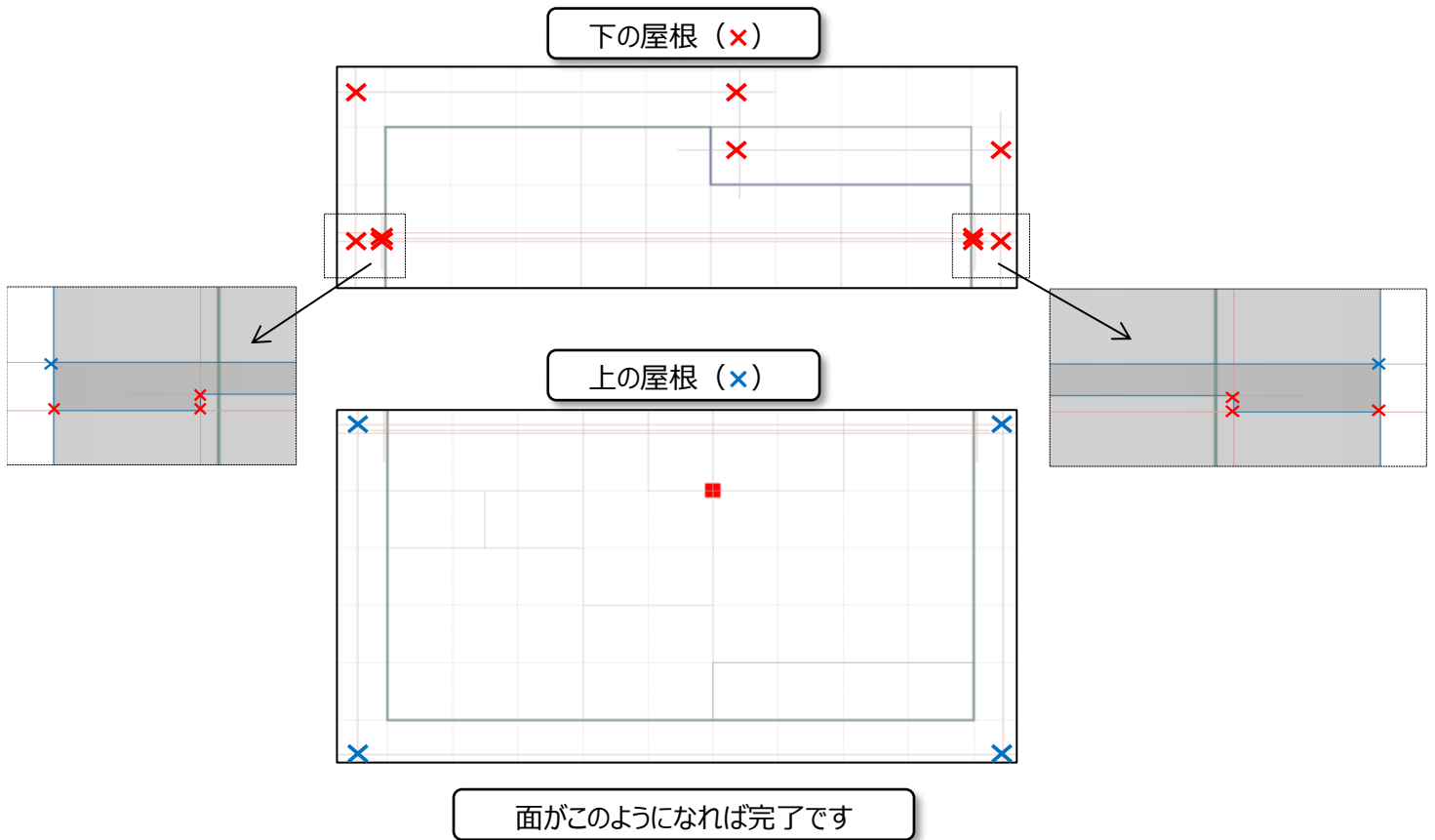
## Ⅱ-2. 屋根面の作成

下書き線に従い、屋根面を作成していきます。

上の屋根と下の屋根の2面を作成する必要があることに注意してください。



※以下のように頂点をクリックします



## Ⅱ-3. 屋根面の設定

作成した屋根面に、高さと勾配の設定を与えます。

※屋根高さの数値の詳細は 補足-6 を参照してください。

① 面設定

② 面設定

③ 高さ・勾配を入力

④ OK

⑤ 面内どこかでクリック

⑥ 基準位置でクリック

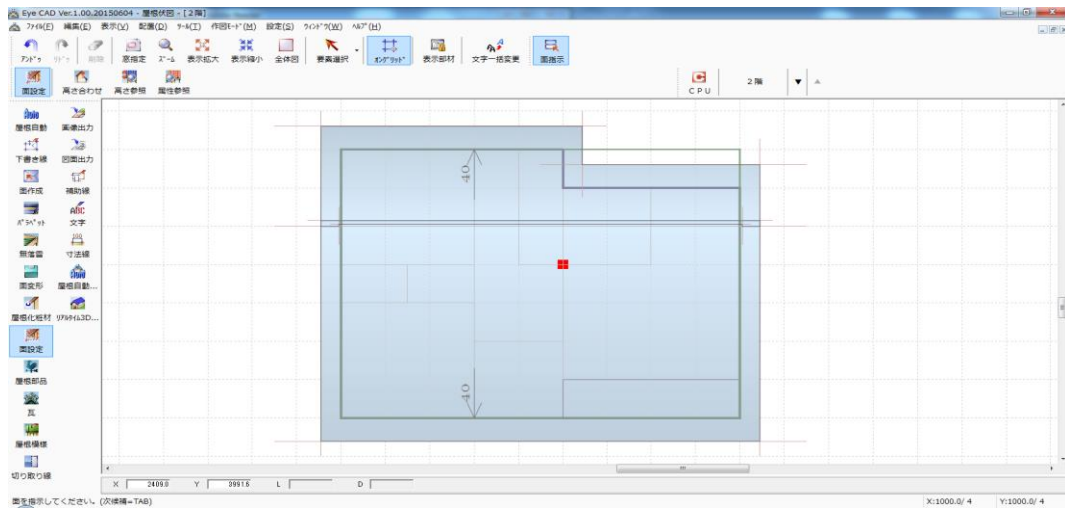
⑦ 矢印の方向を流れ方向に合わせてクリック

基準位置は設計によりですが、母屋上げor下げを行わない場合は、通常流れ方向の最先端にある外壁芯位置になります

面の色が変わります

他の面にも同様に設定を与えます。

以下のようになれば完了です。



【2階屋根伏図】

**FAQ－段違い屋根の入力 は以上です**